



7/1



ぜひご活用ください！

書籍を寄贈いただきました

公益社団法人益田法人会様から市立図書館へ、小中学生向け調べ学習用書籍20冊を寄贈いただきました。書籍の寄贈は平成22年度から続いており、合計で670冊になりました。森本恭史会長からは「外出の機会が減っている今だからこそ、多く子どもたちに活用していただきたい」という言葉をいただきました。寄贈本は図書館児童コーナーに「益田法人会文庫」として配架されています。

土木の魅力中学生へ ～地域のミライのために～

益田翔陽高校で農業土木を学ぶ生徒が、土木の必要性や楽しさを伝える出前授業を中西中学校で行いました。防災ゲームアプリ等を活用して、道路や橋等のインフラ整備や災害の防止、復旧など、土木が自分たちの生活に密接に関係していることを伝えました。今後は、ドローンや建設機械の操作体験、農業用水路の補修作業体験等を通じて、中学生に土木の魅力を伝える予定です。

7/5



まちを支える「みず・みち・みどり・みらい」

日本遺産のまち益田の歩き方

第13回 染羽天石勝神社

本殿右手側を見てみましょう。巨大な一枚岩になっています。ここにはかつて滝が流れていました。この

染羽天石勝神社は、延長5(927)年に当時の国家が編さんした「延喜式神名帳」に「染羽天石勝命神社」(ルビ含め原文ママ。シミハアマイシカツと読む本もあり)とあり、当時から神社があったことがわかります。

中世には神仏習合(神様が仏様が権に現した姿ととらえ、両者が一体のものとする考え方)により、龍蔵権現とも称されました。領主益田氏の信仰も篤く、南北朝時代の益田兼見は、一族の氏神である白口大明神(御神本大明神)とともに大事にするよう定め、その理由を「当所根本大社」(地域にとつて大切な神社)だからだとしています。国の重要文化財に指定されている本殿は、天正11(1583)年に益田藤兼・元祥親子が再建したもので、当時の神社様式をそのまま残しています。前方から見ると柱が4本あります。柱と柱の間を「間」といい、つまり3間あることとなります。横から見ると、屋根が前に流れるような美しい形をしています。このような形式を二間社流造といえます。

【問い合わせ先】

益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会
文責：市文化財課 ☎ 31-0623

滝は、この地域を開発するための貴重な水源だったと考えられ、この岩と滝に対する自然崇拜が信仰の起源と考えられています。

社務所の西側には、かつて神社と一体であった別当寺の勝達寺があり、全盛期には16の末寺を構えたといえます。しかし、明治の神仏分離・廃仏毀釈により残念ながら廃絶しました。鎌倉の極楽寺に木造不動明王坐像(重要文化財)、昭和町の泉光寺に釈迦十六善神像(県指定文化財)などの遺宝があり、これらからもその繁栄が伝わります。

場 染羽町1番60号

石見交通バス各路線のバス
堀川橋バス停から徒歩5分



染羽天石勝神社本殿 (重要文化財)
自然と歴史が一体となって厳かな空間となっている。